

I. 加茂の自然

美濃加茂市と加茂郡 7 町村の自然について、平成 27（2015）年度から生物多様性地域連携促進事業として自然環境調査を行ってきました。ここでは多くの人の協力を得ておこなった調査の結果をまとめました。

1. 大地と大気

加茂地域は多様な地形・地質から成り立っています。坂祝町や上麻生地区に連なる山は硬いチャートの組織地形、加茂地域の東部は美濃高原（美濃山地）と呼ばれる準平原、美濃加茂盆地は木曾川の河岸段丘となっており、高位段丘、中位段丘、低位段丘があります。

こうした地形を構成する地質として、古生代から中生代に海底で堆積した美濃帯堆積岩類、恵那山から飛騨古川へと広がる濃飛流紋岩類や花崗岩類、新生代中新世に堆積した瑞浪層群、木曾川の河岸段丘を構成する礫層などがあります。

堆積岩類のチャートは日本ラインの景観を作り出し、濃飛流紋岩類や花崗岩類は木曾川や飛騨川に侵食されて峡谷や渓谷を形成してきました。瑞浪層群は哺乳類や魚類などの動物化石を含んでいることで知られています。

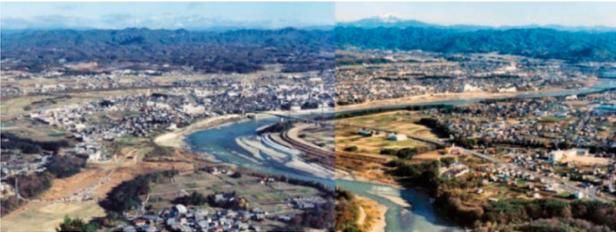
美濃加茂盆地と美濃山地は気候がやや異なりますが、いずれの地域でも年平均気温は高くなりつつあります。ゲリラ豪雨による土砂災害、ダウンバースト（巨大積乱雲に伴う猛烈な下降気流）や竜巻による建物被害などが生じたこともあります。

2. 動植物

(1) 植物

加茂地域で確認された維管束植物は 177科 1,654種（シダ植物26科208種、種子植物151科 1,446種）に上ります。

岐阜県は南北につながる日本列島の中央に位置するため、加茂地域はさまざまな北方系植物の分布南限となるとともに、川沿いには暖帯性の植物が分布します。特に、木曾川と飛騨川に流れ込む溪流は多様なシダの絶好の生育地になっています。砂礫性の湿地にはシデコブシやハナノキなどの東海丘陵要素と呼ばれる植物群も見られます。



美濃加茂盆地の低位段丘



日本ライン



コモチシダ



マルバノキ



キジョラン



ヘビノボラス

(2) 哺乳類

加茂地域では 19科37種が確認され、県内でも生息地が少ないモモジロコウモリの集団が見つかっています。数十年前は神社仏閣に残された大木の洞にムササビが多く生息していましたが、そうした木が伐採されることでムササビの数は減少しています。一方、カモシカ、ニホンジカ、イノシシ、アライグマ、ハクビシンなどが増加しています。

(3) 鳥類

加茂地域では51科202種が確認されています。里山や山林地帯にはそれぞれの環境に適応した鳥が生息し、木曾川や飛騨川には水辺を好む鳥が生息しています。稀な記録としてイヌワシやコノハズクなどの記録があります。近年減少している鳥も多いのですが、カワガラスは橋げたなどの人工物を利用して繁殖して数を増やしているようです。

(4) 爬虫類

加茂地域では10科16種が確認されています。ニホンイシガメやニホンスッポン、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビのような在来のカメやトカゲが身近な環境で見られます。ヘビは8種が生息しており、多様な自然環境が残されていることで、水田周辺のシマヘビなどの他、山地にはシロマダラやタカチホヘビなどの珍しいヘビ類を見ることができます。

(5) 両生類

加茂地域では8科19種が確認されています。外来種はウシガエル1種だけで、在来種としてオオサンショウウオやヒダサンショウウオ、アカハライモリなどの有尾類と、さまざまなカエル類がいます。しかし、在来種は環境の変化によって数を減らしている種が多く、特に水田と山林の両方を必要とするニホンアカガエルやアズマヒキガエルは大きく数を減らしています。

(6) 魚類

加茂地域では17科54種が確認されています。河川上流域から中流域の流水に生息する種が多く、カワムツとカワヨシノボリは加茂地域の全ての市町村で確認されています。また、アジメドジョウも多く、天然記念物のネコギギが生息する川も残されています。しかし、水田地帯や溜池などの湿地や止水を好むカワバタモロコやミナミメダカ、トウカイヨシノボリなどは危機的状況にあります。



モモジロコウモリ



カワガラス



シマヘビ



ヒダサンショウウオ



トウカイヨシノボリ

(7) 昆虫類

加茂地域では315科3,344種が記録されていますが、今後の調査でまだまだ種数は増加すると考えられます。平地から中山帯にかけて生息する昆虫が分布しており、他地域では減少しているタガメやヒメタイコウチが比較的多く残っています。また、地域内にミカワオサムシの3亜種（基亜種、岐阜県中北部亜種、岐阜県南部亜種）が分布するといった興味深い特徴があります。

(8) 十脚甲殻類

十脚甲殻類とはエビ・カニの間であり、加茂地域からは5科5種が確認されています。山地にはサワガニが広く分布しており、木曾川などには海から遡上したモクスガニも生息しています。アメリカザリガニは外来種として美濃加茂盆地に広く定着していますが、山間地の水田にはまだ侵入していないようです。

(9) 淡水貝類

川や池、水路の淡水貝類は7科18種が確認されています。イシガイ科などの二枚貝は圃場整備などによる水路のコンクリート化で著しく数を減らしています。イシガイ科の貝類はタナゴ類やカワヒガイのような淡水魚が卵を産みつけるために必要なので、こうした貝類の減少は淡水魚の減少にもつながります。



ミカワオサムシ岐阜県南部亜種



サワガニ



ヌマガイ

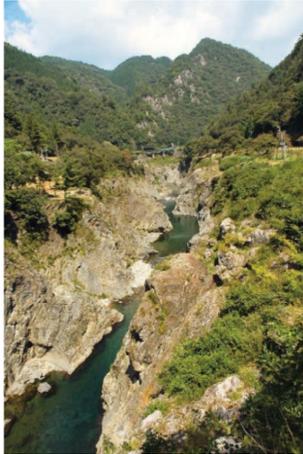
II. 貴重な地形・地質

加茂地域には特徴的な地形や地質が多数見られます。しかし、貴重な地形や地質は、時間の経過によって風化するだけでなく、開発や興味本位の採掘などによっても破壊されていくため、地形・地質のレッドリストとして「保護・保存する地形・地質」を選定しました。

保護・保存する地形・地質

地形
①飛水峡 ②飛水峡の甌穴群 ③日本ライン ④日本ラインの奇岩群 ⑤北山の棚田

地質
①上麻生・日本最古の片麻岩礫 ②坂祝のイジェクタ層 ③三和町一反田鉱山跡 ④山之上町の桂化木 ⑤鹿塩の重ね岩 ⑥蜂屋町広橋の火山角礫岩層 ⑦蜂屋層の動物化石 ⑧中村層の小型哺乳動物化石群 ⑨八百津町錦織の木曾川泥流堆積層と樹幹化石 ⑩川合町箱井の湧水



飛水峡